

乗鞍本宮

乗鞍本宮は、乗鞍岳の最高峰である剣ヶ峰（標高 3,026m）の頂上に位置する神社です。古くからの霊場であり、何世紀にもわたって巡礼者やハイカーに崇拝されてきました。シンプルな木造建築は、神道で最も重要な神である太陽の女神、天照大御神を祀っています。天照大御神は、山頂に登り、神社に参拝する人々を守ると考えられています。多くのハイカーは夜明け前に登り、日の出を見て、太陽の最初の光線が山頂を照らす時に神の存在を感じます。

乗鞍本宮は、元々は鞍ヶ嶺神社と呼ばれ、800 年以上前から何らかの形で存在してきました。1181 年、名将・木曾義仲（1154-1184）の家臣が山頂に登り、金色の像を安置して源平合戦の勝利を祈りました。また、修行僧であり詩人、彫刻家でもある円空（1632-1695）も登って祈りを捧げたといわれています。現在の建造物が建てられたのと同じ 1949 年に、この神社は乗鞍本宮に改名されました。

乗鞍バスターミナルから乗鞍本宮までのハイキングは約 1 時間半から 2 時間、往復で約 3 時間かかります。また、代わりに剣ヶ峰に登らずに参拝することもできます。バスターミナルの駐車場内には、もう一つの小さな神社、乗鞍岳の山頂に行けない人のために作られた遥拝所があります。別名、中ノ社（なかのやしろ）とも呼ばれるこの神社は、1953 年に乗鞍への登山者や観光客の安全を祈願して建てられました。現在の建物は 1974 年に建てられたものです。